

2010年度主な規約とルール確認

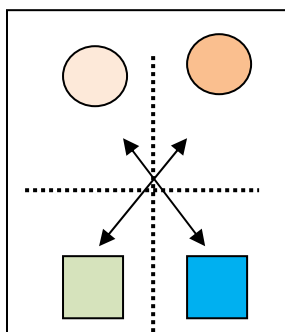
■ ローテーションミス

ローテーションミスの場合、(故意でない場合) ボールデッドの時点で点数はカウントし、ローテーションを正確な位置に戻し、試合を継続する。

■ アウト・オブ・ポジション (反則失点)

前後、左右の位置

ネット



Point (サーバーがサーブをヒットする前)

1. 後衛の選手は前衛の選手より前に位置してはならない。
2. 左右の選手を越してはならない。
3. 対角線の選手に関しては、2の事項をあてはめない。

サーブをヒットする前に、コートラインを越えて(片方及び両方の足)位置した場合もアウトオブポジションを適用する。但し、ラインを踏んでいる場合は、この限りでない。

■ タイムアウト

1セット2回通算で30秒以内のタイムアウトを取ることができる。

試合中のアクシデントの場合はタイムアウトと見なさないが、アクシデント当該選手も含め作戦的な集まりと審判が判断した場合は、タイムアウトをとったものとみなす。

■ サーブ

主審の吹笛から5秒以内にサーブを打たなければいけない。

主審の吹笛からサーブをヒットするまでの動作の制限はないがサーブの空振りは失点となる。

反則サーブ(両肩の延長線より上方でヒットする場合)

反則サーブの場合、1回目は打ち直し、2回目からは反則とし即失点となる。(チーム全体で)

主審が反則サーブと判断した時、そのサーブがアウトの場合はそのまま失点とし、警告も1回行ったものとする。

■ サーブを打てる範囲とラインクロス

両サイドラインの延長線より内側でサーブしなければならない。ラインクロスとは、両サイドラインの延長線及び、エンドラインに触れた場合に反則となる。

ポイントはラインに触れるかどうかということであります。故に、サーブをヒットした瞬間、ラインを踏んでいなければ可ということになります。また、サーブを打つ部位は、手のどの部位だけでも認める。

Q&A サーブをヒットした瞬間が、サイドラインの延長線より外側からの場合は反則ですか?

(回答)

ラインクロスとの関係ですが、ボールをヒットする手の部位、或いは腕や身体がサイドライン、エンドラインを超えていても反則とはなりません。

あくまでも、ラインと床と接触している足がラインを踏んでいるかどうかで判断します。

従って、片足がラインより内側にあり、もう一方がラインを超しているとしても床面と折衝していなければOKです。

■ オーバーネット

ネットの延長線より手（指を含む）が出た場合を対象とし、架空の延長線に触れた場合は反則としない。**ブロックする時、手の甲は自分の方に向いていなければならない。**

■ イン・アウト

ボールと床面の接触点がコートラインに少しでもかかればインとする。

■ レシーブの部位

膝から上であればセーフ。

■ ポールとネット

ネットが接しているポール部分にボールが接してもセーフとする。それより下のポール部分にボールが接触した場合はアウトとなる。

但し、ネットが接しているポールにボールが接したとしても、アンテナに触れた場合はアウト。

■ 隣接コート侵入の場合

隣接コートでゲームが行われている場合、隣接コートに侵入した時点で反則となり即失点となる。但し、アングル部分の飛び越しは可。

また、隣接コートの選手に危険性をもたらす侵入についてはレッドカード対象となります。

（隣接コートでゲームが行われていない場合のコート侵入プレーは危険行為に当たらないものとして認める。）

■ マーカー外通過とは

ボールは、アンテナの延長線上のラインより完全に内側を通過しなければならない。

（アンテナの延長上の架空の線にボールが少しでもかかる（接触）したらアウトとなります。）

2009年度審判講習会 大会規定確認

■ 本年度からの適応規定

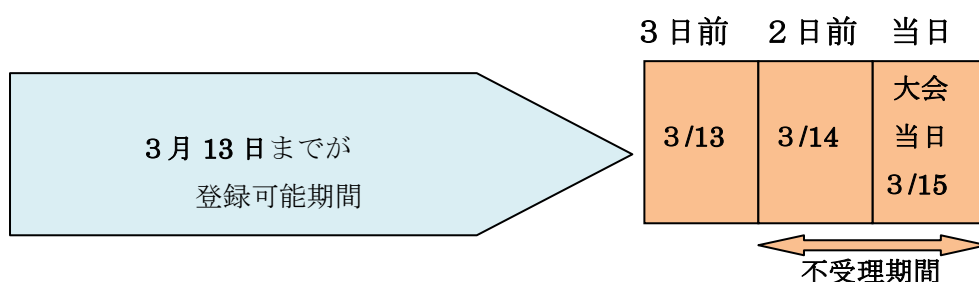
◇ 追加登録

現行の追加登録制度である「追加登録者は次年度も、そのチーム以外からの登録禁止」という項目を撤廃し、個人の意志で自由にチームを選択できることとする。

追加登録は、1STステージから可能とする。

追加登録する場合は、書面（HP「お問合わせ」）で正当事由を記し追加選手と削除選手も同様に（HP試合予定箇所）から大会当日を含め3日以内前迄に実行委員会に送付しなければならない。追加登録は2名を限度とし全体で6名を超える場合は既登録選手を削除し6名迄にする。

但し、正当事由があれば8名までの登録を認める。



正当事由とは： 公共行事（学校行事も含む）、冠婚葬祭、疾病、ケガ、仕事等
但し、不受理期間であっても、ケガ及び不慮の出来事（葬儀等）の場合は、大会当日でも受付ける。
登録部分の改訂

フリー規定廃止（2008年度からフリー既定を廃止）

但し、目に余る選手（従来規定を参考にすが、チームの解散、JAPAN-CUPからの辞退の場合は、カウントしない。）と大会実行委員会が判断した場合には、当該選手の登録を拒否することができものとする。

【追加登録制度の改正】

やむを得ない事情が生じた場合 2名までの追加登録を認める。

との規定があるが、この2名のうち1名は、他のチームの登録者でも認める。但し、他チーム登録者を借りる場合は、相手側チームの承諾を受けなければならない。

また、**ステージの獲得 Points からの減点も本年度から撤廃**する。

【新 Points について】

審判講習会 Points

1名の参加者に対し5 Points 以降1名の参加につき2 Points を加算。

（例えば5名参加の場合、1名の5 Points+4名×2 Points=13Points）

但し、13Points を限度とする。

また、不参加チームは、年間総合 Points より5 Points を減じる。

※事前申請のあったチーム及び選手に対しては、特別に2回目の審判講習会を行います。

参考 1. (現行規定)

追加登録申請事由に虚偽が判明した場合、該当チームの年間獲得 Points から 10% の Points を減じるものとする。

参考 2. (2009年度より改正)

■女子 J-1 は 25 チーム制とする。

2010 年度の戦績で決定し、本年度 22 位までが J-1 残留。23 位～25 位までの 3 チームが J2 へ降格、J-2 上位 3 チームが J-1 へ昇格する。

※昇格既定の改正

J1 より辞退チームが出た場合、J1 より降格チームを優先することとする。

■女子 J-2 は、ジャパン経験者チームを 1 チーム作り 8 チームの総当たりリーグ戦を行う。

予選、決勝リーグと分けず、総当たりで順位を決定する。

■男子の部

1 パート 7 チーム総当たりリーグ戦で予選を行う。(5対5スタートの 1 セット 20 点マッチ)
決勝リーグは、予選戦績結果で 1 パート 7 チームの総当たりリーグ戦を行う。

1 セット 20 点マッチで行う。(時間の関係上、途中でスタート点数を変更する可能性もある)

参考 3. (男子の部の試合形式及び進行)

4 パート (各パート 6 チーム制) の予選リーグを行い、決勝リーグは、各パートの順位で行う。

A リーグ	B リーグ	C リーグ	D リーグ
予選 A パート 1 位	予選 B パート 2 位	予選 A パート 4 位	予選 B パート 6 位
予選 B パート 1 位	予選 A パート 3 位	予選 A パート 4 位	予選 B パート 6 位
予選 C パート 1 位	予選 B パート 3 位	予選 A パート 5 位	予選 B パート 6 位
予選 D パート 1 位	予選 C パート 3 位	予選 B パート 5 位	予選 A パート 7 位
予選 B パート 2 位	予選 D パート 3 位	予選 C パート 5 位	予選 B パート 7 位
予選 B パート 2 位	予選 B パート 4 位	予選 D パート 5 位	予選 C パート 7 位
予選 B パート 2 位	予選 B パート 4 位	予選 B パート 6 位	予選 D パート 7 位

■ お手伝いチームの改訂 (※1)

- ① 全体受付開始時間 (8:45) より 10 分前にチーム代表が、本部前で出席のチェックを受けなければならない。
- ② 片付けもお手伝いチームが担当し、完了したら本部へ報告しチェックを受ける。
- ③ ①、②に反した場合、それぞれ 3 Points、両方とも反した場合、7 Points を総合 Points から減ずる。

但し、正当事由があれば特認するが、次回のお手伝いチームとなる。

(注) 後片付けとは、コート of 備品の片づけ及びモップかけまでとする。

■ 駐車場係 (8時20分～8時50分まで)

審判講習会に不参加チームの中から本部より指名し、その役割を果たさなかった場合 3 Points を総合 Points から減じる。

■ 主審・副審は審判講習会受講者のみ行う (※2)

受講者がいないチーム同士の主審・副審は本部で指名する。

主審・副審対象者はコートに掲示する。

■ ユニフォームについて

ユニフォームの前後（いずれか一方でも可）に10㎝×14㎝以上の大きさを番号を表示し、袖口など見えにくい個所は避ける。チーム名については表示するように推奨する。

また、上記に反する場合は、布製のゼッケンを付けなければならない。

ユニフォームのないチームは、ゼッケンに番号とチーム名を表示し付着することでユニフォームとみなす。

■ 試合中の手袋使用禁止

同条件でゲームを行う大会であるが故、僅かなボール接触も分かりづらい場合等の意見がありゲーム中の手袋使用を禁止する。

但し、ケガなどによる正当事由があれば特認することもあるが、申請しなければならない。

■ 審判・ゲーム時の禁止事項

- ① ガムを噛みながら、飴等を食しながらのゲーム参加や審判をする行為は禁止する。
- ② 携帯電話、音楽機器（イヤホン等）の禁止。
- ③ 主審、副審、線審がバック等を持ったり肩に掛けたりして行う審判行為。

■ レッドカードの強化

- ① ギャラリー（応援者など）の相手チームへの誹謗中傷、審判に対するクレーム
- ② キャプテン以外者の審判への抗議
(審判のジャッジに対し、キャプテン以外の選手がクレームをつける行為が多く報告されています。抗議権はキャプテン=キャプテンマーク装着者のみに与えられているものですから遵守を徹底してください。)

新規定

- ①相手側に返球する際、ネット越しに返球する行為については、イエローカード。
(①の場合、主審は1回警告し、2回目以降は、警告外選手であっても対象となる。)
- ②相手に返球する場合、ボールを蹴っての返球や床にたたきつけ返球する行為は、即レッドカードとなる。
- ③暴力行為（言葉の暴力も含）の場合、理由を問わず即退場処分。
(退場処分とは、フロアー及び2階席からの退去のことである。)

■ JAPAN-CUP スケジュール

1 St ステージ： 3月28日(日) 会場「合志市ヴィーブル」

2 Nd ステージ： 7月18日(日) 会場「合志市ヴィーブル」

3 Rd ステージ： 11月予定（未定）